

## 我が国の分布状況, 他

本種は、植物版レッドリスト(環境庁, 1997)では、絶滅危惧 I A 類にランク付けされている保護上重要な種類である。手持ちの資料で分布状況を調べた結果、三木茂博士寄贈水草腊葉目録では、青森(1925, 1933, 1934), 岩手(1924, 1934), 京都(1934), 岡山(1924, 1933), 広島(1935), 香川(1929), 鹿児島(1928)の記載がある。また、日本産野生維管束植物レッドリストによれば、1994-95年の現地調査では青森、徳島、福岡での生育が確認され、秋田では絶滅、新潟では現状不明、長野、鹿児島は文献・標本によって分布記録があるが、今回の調査では情報が得られなかったとされている。なお、徳島での分布については、問合わせた結果、誤認されているとの情報が得られた。

今回生育が確認された場所は、近年作られた、人工島の汽水性人工池である。当池へはどのような方法で分布(移入)し生育できたのだろうか。埋土種子によるもの、人為的に持ち込まれたヒメガマ等に付着、水鳥に種子等が付着して来た、などが考えられる。

我が国で現存している自生地の内、福岡県北九州市若松区の埋立地の沼沢地は、六甲アイランド

の人工池と同様な環境と考えられる。また、青森県小川原湖は、7 kmで太平洋とつながった、海水が逆流する汽水湖である。北九州の場合、大野氏は鳥類に付着し運ばれてきた可能性を有力視されている。

六甲アイランドで生育を確認してから3年が経過した。当初一時的な生育に終わるのではないかと考えていたが、毎年安定的に生育が見られる。公園内の人工池という特殊な環境であり、本来の自生地でないので、今後急激な環境変化により絶滅することも考えられる。この報告を機に、神戸市の担当課へ通報することになっている。

## 引用文献

- 大阪市立自然史博物館, 1978. 収蔵資料目録第10集  
三木茂博士寄贈水草腊葉目録.  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑, 文一総合出版.  
日本植物分類学会, 1998. 日本産野生維管束植物レッドリスト. 日本植物分類学会会報 13: 52-80.  
大野睦子, 1998. 北九州の水辺に生きる植物たち, 埋め立て地の植物-2. わたしたちの自然史(66): 6-13.  
浜端悦治, 1998. 小川原湖(青森県)における沈水植物の分布現況(要旨). 水草研究会会報(65): 1-3.

○太刀掛 優著『広島県呉市植物誌』(比婆科学教育振興会発行, 1999年8月, 334p., 7,000円)

呉市に生まれ育ち、退職まで地元で教壇に立たれた著者の約50年間にわたる調査記録をまとめたものである。府県レベルの植物誌は数多いが、一地方都市でこれだけ詳細な地域の植物相をまとめたものは少ないのではなかろうか。「かつての呉市の自然はこのように豊かなところだったという記録」(序文)を残したいという願いが、本書の出版の動機であるという。呉市の地形図を見ると、川は急流でため池も少ない。したがって水草は多くはないと想像されるが、かつては結構いろいろ

な水草が見られたという。しかし、今ではヒツジグサやミズオオバコなどばかりでなく、ヒシヤマツモのような普通種も消えてしまった。しかし、カワツルモやデンジソウが今でも細々と生きているという。

はじめに呉市の自然環境や植物研究史がまとめられ、後半が植物目録である。シダ植物117種、種子植物1,192種が簡潔な解説と標本リストとともに挙がっている。

照会は比婆科学教育振興会(〒727-0013 広島県庄原市西本町1-7-7 中村慎吾 様方 TEL & FAX 08247-2-3234)まで。(角野康郎)